

第 3 回匝瑳市市民協働のまちづくり委員会

テーマ 1 「課題を解決し、目指す姿を実現するための方法」(事例ワーク 1 ～ 3) にかかる他自治体の協働事例集

●事例ワーク 1 …地域資源を活かした観光振興のための協働事例

課題：産業振興・観光客の受入れ体制に課題がある

●事例ワーク 2 …結婚・出産・子育ての課題を解決する協働事例

課題：人口が減少し、少子高齢化が進んでいる

●事例ワーク 3 …イベントを通じて地域のつながりの再生・強化を

目指す協働事例

課題：近隣、地域の結びつきが薄れてきている

平成 2 7 年 9 月 1 4 日

目 次

（事例ワーク1）地域資源を活かした観光振興のための協働事例	3
松代の文化遺産を活用した地域おこし	3
旭・いいおか復興観光まちづくりプロジェクト	4
共生・協働による地域密着型旅行商品造成支援事業	5
体験イベントで観光客をおもてなし	5
（事例ワーク2）結婚・出産・子育ての課題を解決する協働事例	7
行方市の婚活支援体制	7
区長会が主体となった地域づくりのネットワーク	7
沼田市子育て支援ネットワーク事業<沼田市子育て支援ネットワーク推進協議会>	8
住民ボランティアとの協働による家庭訪問型子育て支援事業	9
病児・病後預かり促進事業	10
（事例ワーク3）イベントを通じて地域のつながりの再生・強化を目指す協働事例	11
長岡京ガラシャ祭の開催	11
八千代牧場まつりの開催	11
みんなで一緒に汗を流そう！まつりが協働の出発点 ～とちぎ協働まつり～	12
「鳴門のまつり」開催	13
佐久市の各種まつりの開催	13

（事例ワーク1）地域資源を活かした観光振興のための協働事例

松代の文化遺産を活用した地域おこし	
抱えていた課題	<p>昭和41年に周辺市町村とともに長野市に合併し、中心市街地から離れ住民の声が行政に届きにくくなり、住民の自治エネルギーが発揮される場がなくなったと感じるようになりました。その結果、</p> <ul style="list-style-type: none"> * 貴重な歴史的文化遺産がありながら埋もれてしまうおそれがある * 町に勢いがなくなった <p>といった課題を抱えるようになりました。</p>
課題解決に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ○松代の魅力を地域住民に意識づける <ul style="list-style-type: none"> ・ 町屋街並み保存の機運を高める。 ・ 行政に任せず自分たちでやる。 ○歴史的文化遺産を活かした町の活性化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 潜在している資源を掘り起こし、磨きをかけ、見える化を図る。 ・ 全国発信をする。
協働の体制	<p>平成12年に行政が住民の参画を得て松代地区活性化のための基本計画を策定したのを受け、その計画を行政任せにせず住民参加で進めようと一般住民有志に参加を呼び掛けたところ100名が賛同し、平成13年6月に「夢空間松代のまちと心を育てる会」が発足しました。現在では、肩書きを持たず主体的に参加した住民150名が、世代を超え、松代では初の本格的なネットワーク型まちづくり組織として様々な協働を展開しています。</p>
工夫したこと・成功の秘訣	<ul style="list-style-type: none"> * 合併をマイナスに思う人や行政に対し不満を持つ人が多い。 * 行政の具体的な事業計画が無かったため予算化されない。 * 歴史的文化遺産がありすぎて、焦点を絞ることができない。 <p>（後に、市行政により史跡整備は推進されましたが、独立自治体であればもっと早く松代の独自性を活かして発展しただろうとの声が、町の内外を問わず存在します。）</p> <p>このような問題を抱える中でも、人々との協働、共感の積み重ねの中で人が育ち、合併以来失いかけていた「自分たちでまちづくりを行う」という機運が盛り上がり、まちづくりのエネルギーが結集されていきました。</p>
協働の成果	<p>活動を通して、今まで住民自身も気付いていなかった松代の魅力を再発見していく中で、歴史と伝統に裏付けられた松代の素晴らしさを再認識し、地元を誇りを持つ人が増えていきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個人庭園、寺、町屋街並み路地めぐりから町の魅力再発見 ○神奈川大学と町づくり研究所開設 ○「街並みウオッチング」から国の街並み環境整備事業導入へ ○まち歩きルート開発によるガイドブック発刊に地元高校生も協力 ○次世代育成 ○松代のブランド化を目指す「エコール・ド・まつしろ」の推進
今後のビジョン	<p>一人一人が疎外されることなく自分らしく生きることの出来る町、松代に生まれてよかった、松代に住んでいて良かったと誇りに思える町、次代を担う子ども達により良い環境を伝えていく。そのためにも地域の自然や歴史、文化をしっかりと掘り起こして現代によみがえらせ、新たな地域文化を創造して次世代に繋げていく活動を進めます。</p>

旭・いいおか復興観光まちづくりプロジェクト

協働の概要	東日本大震災によって甚大な被害を受けた旭市において、観光による地域復興を目指し、被災体験を活かした地域の防災教育事業（防災士等の資格取得支援、防災紙芝居、広報紙の発行、メモリアルイベント等）や新たな特産物制作（地元民話を基にした土産品、地元産品を使った弁当やお菓子）によるまちづくり事業、防災教室ツアーの受け入れなどの観光振興事業を行っています。
協働までの経緯	<p>日常生活や地域産業は大きな被害を受け、地域全体が先の見えない不安に駆られていました。</p> <p>そのような中、旭市飯岡地区の刑部岬展望台を拠点にその眺望のすばらしさを観光資源として発展させてきたNPO法人光と風(当時「光と風キャンペーン実行委員会」)は、地域の状況に危機感を抱き、復興をばねにして、まちづくりを行うことを決意しました。</p> <p>飲食店仲間に呼び掛け、食事代の10%を寄付とする「復興丼」の販売をはじめとした様々な活動を行いましたが、本当の復興には、もっと地域が主体的に関わり、産業や経済を活性化させること、また、被災体験を残すこと・活かすことが大切であると考えるようになりました。</p> <p>そこで、『防災』をテーマにした観光復興事業を考案し、被災者支援や復興のためにそれぞれ活動を行っていた団体や市に声をかけ、NPOを事務局に「いいおか津波復興プロジェクト協議会」を設立しました。24年度に千葉県が実施する補助金事業「連携・協働による地域課題解決モデル事業」に応募・採択され、協働による話し合いの場として円卓会議を設置し、事業を実施していくことになりました。</p>
役割分担	<p>【NPO】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人光と風：協議会事務局として事業全般の管理、円卓会議・防災教室及び復興かわら版事務局運営 ・いいおか津波を語り継ぐ会：防災教室等での語り部、語り継ぐ集い企画・運営 ・被災者聞き取り調査記録編集委員会：復興かわら版の企画及び作成・配布 <p>【地縁団体】：語り継ぐ集い実行委員会として参画</p> <p>【行政】：市民団体・商工観光・まちづくり事業者との連絡調整、事業への助言</p>
協働の成果	<p>○震災という経験を通して、地域への愛着・復興への想いを共有する多くの主体が関わってくれたことで、それぞれの特性に応じた役割分担ができ、当初想定していた以上に事業の幅が広がった。</p> <p>○参加者の話し合いの場となる円卓会議を設置したことにより、情報収集力・企画力・運営力が向上し、下記のような成果が得られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議構成員またはそこからのつながりにより、土木関係など専門知識や技術が必要な事業でも、効率的に進めることができた。 ・地元産品を使った新製品づくりでは、試作のたびに様々な視点からの意見をもらえたことで、改良を重ね、より良い製品を作ることができた。 ・市との協働により活動に対する信用が得られた。
今後力を入れていきたいこと	<p>○市役所内や市議会に対して活動への理解をさらに深め、防災資料館の管理者の指定を目指して、官民協働の場である円卓会議を地域に根付かせていきたい。</p> <p>○観光を軸としたコミュニティビジネスの立ち上げ、雇用創出を図り、その収益を活動への寄付金として還元されるようにしたい。</p>
協働のコツ	<p>★来るもの拒まず去る者追わず、事業はいつ誰に対してもオープンドア</p> <p>★たくさんの意見を聞く。考えが同じ人だけの話し合いはNO！</p> <p>★トラブルがあったときこそ、相手ときちんと話し合う</p>

	<p>★会議での議事録は即作成&情報共有</p> <p>地元住民はもちろん、市外の団体や個人でも、事業の趣旨に賛同してくれるのであれば、円卓会議や事業に参加できる仕組みにし、気軽に地域活動に参加できるようにしています。</p> <p>立場や手法の異なる行政と信頼関係を築き、関係を深めるために、互いを尊重し、一つずつ丁寧に話をしていくことを心掛けています。</p>
--	--

共生・協働による地域密着型旅行商品造成支援事業

プロジェクトの概要	<p>県内各地域で実施される体験型観光メニューを集積した地域密着・期間限定のイベント「かごしまよかこ博覧会」について、実施団体への指導・助言や実施団体間のネットワーク構築などの全体運営等の役割を、県に代わりNPO法人が担うこととし、平成23年度以降、民間による博覧会の実施や観光メニューの旅行商品化を促進する仕組みの構築を図る</p>
協働の視点	<p>観光振興やまちづくりを目的として活動する県内各地域のNPO法人等が中心となって、体験型観光メニューの提供者や関係機関等と連携しながら、全体運営も含め、「かごしまよかこ博覧会」を実施する。</p>
協働の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・かごしまよかこ博覧会については、平成21年度に県内5地域、平成22年度は県内7地域で実施された。 ・同博覧会で実施された体験型観光メニューが旅行商品の一部に組み込まれたほか、いくつかの地域では、地域の博覧会が継続的に実施されている（始良市蒲生町における「カモコレ」や、薩摩川内市における「きゃんぱく」、奄美市における「あまみシマ博覧会」など）。
課題・改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・メニューづくり ・旅行エージェントに対する観光メニューのセールス・PR

体験イベントで観光客をおもてなし

協働の内容	<p>瀬戸内海流域を活動地域として広島県内外に6つの支部を置く瀬戸内里海振興会。平成21年度の「地方の元気再生事業」として内閣府の助成を受け、平成21年10月16日、11月6日、平成22年3月3日の3回わたり「世界に繋がるみなと広島魅力発信賑わい創出プロジェクト」を開催した。</p> <p>広島港に寄港する外航クルーズ船の乗客、ならびに広島市内を訪問中の外国人観光客に対して、「おもてなし」をキーワードに「その場・地域・広域」の3種類の体感イベントを実施した。広島県の伝統文化紹介によるもてなし（その場体感）として、広島港にある宇品波止場公園で神楽の上演会を開催。宇品界隈の紹介と店舗イベント（地域体感）として、煎茶講習会や野立て茶会、雛人形の制作見学や展示、琴の演奏会などを実施。さらに、海上第二次交通を利用した広島の魅力体験（広域体感）として、呉・下蒲刈への無料クルーズ船の臨時就航など、多彩な催しで外国人観光客を迎え入れた。</p>
協働の背景・経緯	<p>「里海」に触れ合いながら学び、研究し、情報を発信することで、里海の保全と特色のある地域発展に取り組んでいる同法人。地域の海への理解を深めてほしいと、諸海岸で小学生とその保護者や地域住民を対象に、海藻押し葉づくり・生物観察・海浜ゴミ観察の自然学校の開催や、フェリーターミナルで地元漁協から鮮魚の提供などの協力を得て、和紙の上から油絵の具で形を取るカラー魚拓講座を開くなど、</p>

	<p>毎年多くのイベントを行っている。</p> <p>そのほか、アサリや海藻などの生育モニタリングや干潟造成のモニタリング、環境改善への調査・研究などにも積極的に取り組んでいる。</p> <p>平成17年から呉市浦崎小学校の総合学習として行なわれている人工干潟(同市海老地区)の生物調査は、6年目を迎えた平成21年に干潟生物調査の手引書を作成。100部を地域の小学校や住民に配布し、総合学習の教材として使用する予定となっている。</p> <p>また、平成17年から19年までの各年1回ずつ、広島、呉、徳山の主要な港で開催された「みなと七夕まつり」では、海をテーマに願い事を書きこむという手法でアンケートを行った。このアンケートで「港に浮いているゴミをなんとかしたい」「子どもたちが大きくなっても安心して遊べる海であってほしい」「港を活かし賑やかなまちにしてほしい」という回答が多くみられ、地域に対する課題や要望がいくつか浮きぼりになった。</p> <p>前出の協働事例は、これらのアンケート結果に照らして広島港の周辺地域の活性化を目指し行なわれたもの。</p> <p>同港は年間約30隻の外航船を迎え入れる。しかし、外国人観光客は港には留まらず市内の観光名所へと移動するのが大半。同法人理事の田坂勝さんは「港の利用の仕方が変わってきている」と指摘する。</p> <p>交通の乗り換え場所としてしか機能せず、従来のような賑わいのある「地域の玄関口」というスタイルではなくなってきたということだ。この現状を改善するにあたり、まずは地域の受け入れ体制を整えることが必要と考えた田坂さん。イベントの開催に向け地域住民と幾度もの対話を行い、意識の共有に力を注いだ。</p>
協働の成果・展望	<p>回を重ねるごとに着実に観光客の数が増えており、初回に比べ第3回目は約4倍の集客になっている。また、「イベントの開催によって地域住民の意識も変わってきた、今回の事業によって地域住民と地域の問題点を抽出、共有できた」(田坂さん)と手応えを感じている。</p>
課題	<p>「観光客に何度も足を運んでもらうためには地域との交流が大切。コミュニケーションのとり方をはじめ、諸外国から訪れる観光客のためには多言語の案内板が必要になったりする。買い物などの決済方法はクレジットだが、地元商店街などでは一部しか対応がない」というのが改善点として挙げられる。</p> <p>「抽出した問題をどのように解決していくのか、地域住民の方々を主体に解決に向けてサポートしていきたい」と話す田坂さん。現在、効果的な解決法を模索している。</p>

（事例ワーク2）結婚・出産・子育ての課題を解決する協働事例

行方市の婚活支援体制	
事業の目的	なめがたの魅力・良さ、なめがたの地域資源をいかした「なめがたらしい」結婚支援を次の体制で行っています。 行方市に住んで良かった、行方市に住み続けたい・・・なめがた版婚活を通して、そのような思いを地域ぐるみで育みます。
支援体制（役割分担）	<p>【行政】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出会いの場やセミナー等の企画 ・ 独身者とチームOSKのコーディネート ・ 結婚支援に係る各種団体との連絡調整 ・ 市役所の一体的な結婚支援の情報発信など <p>【結婚支援団体】</p> <p>商工会，市内企業，JAなめがた，マリッジサポーター連絡協議会，NPO法人ベルサポートなど</p> <p>【行方市地域結婚支援者 チームOSK（おせっかいの略）】</p> <p>（目的「私たちはあなたの結婚を支援します」）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まったくのボランティア（交通費等なし，ボランティア保険のみ） ・ 研修や会議等に必ず参加する。 ・ 恋愛や結婚の相談を受ける。 ・ 出会いの提供のみ（成婚報酬等はもらわない） ・ 登録条件は「行方市の若者の幸せを願っている，行方市在住者。年齢制限はなし」など

区長会が主体となった地域づくりのネットワーク	
活動内容	<p>①若者対策部会の婚活活動</p> <p>平成21年から“愛・逢パーティ”を開催し出会いの場づくりを行った。 “愛・逢パーティ”は今年で3回目、初回はやり方がわからず、阿木地区全戸に区長会を通じ案内を出した。40名近くが出席したが、人数が多いと自己紹介だけでも時間をとり大変なので、以後は5名、5名とか人数を絞って開催するようにした。今年11月に開催。場所は手づくりパン屋さん、“ふたりで一緒にピザを作りますか？”とピザ作りを設定した。</p> <p>②子育て支援事業「ぼけっと」の開設</p> <p>小学生以下のお子さんをお持ちの阿木地区の女性を支援し子育てしやすい環境（カンガルーのお母さんのぼけっとの中の安心感）を作るため、家族の病気、病院通院時の子供の預かりについては中津川市のファミリーサポートとの取次ぎ業務を行う（市との連携）。市では対応できない病院の順番とり、薬の受け取り等は阿木が独自に「ぼけっと」で行う。</p>
活動のきっかけ・経緯	阿木地区は約800世帯、人口約2,500人で少子高齢化（高齢化率は中津川市で2番目に高い）がますます進んでおり、このままでは、地区が動いていかない。この対策を行政に任せずに地域から発信し行政の協力を得たいと考えた。その為に阿木地区の各種団体（55団体）すべてに声をかけ、地域が一体となって動けるよう区長会の再編を行った。

ポイント・工夫している点	①未婚者が会おう場“愛・逢パーティを主催、参加人員を絞って開催した。 ②行政ではできないことも、必要と思われることは「ぽけっと」で行うようにした。
課題・今後の展望	○スタッフが少ない中で業務が多く多忙である。 ○リーダーとなって働いてくれる人材の育成 ○行政の支援を引き出す工夫。

沼田市子育て支援ネットワーク事業＜沼田市子育て支援ネットワーク推進協議会＞

事業概要	沼田市内の子育て支援団体や子育て中の親たちのボランティアグループ等をまとめて「沼田市子育て支援ネットワーク推進協議会」を立ち上げた。協議会を中心に、子育て支援団体の活動やニーズを調査しネットワーク化することで、情報を広く知らせ共有し各団体間の交流を図り、さらに子育てしやすい環境を整えるための活動を行った。 (1) 講演会等開催事業 (2) ホームページ作成・管理事業 (3) 実態調査事業 (4) 沼田市保健福祉センター「子ども広場」活用事業 (5) ニュース紙発行事業 (6) 参加・支援事
協働効果	「子育て」というキーワードにおいて、一人ひとりのご利用者の皆さんの視点に立ち、行政や民間といった立場から発生する認識や意見の相違をお互いに尊重して理解し合い、ひとつひとつの課題解決に向けて協力・協働しながら本事業を進められて本当に良かったと実感しています。結果は利用者の皆さんの増加数に表れていると思っています。
苦勞した点・工夫した点	中間支援センターであるNPO法人利根沼田地域ボランティアセンター(ごったく広場)が中心となり、地域内の子育て支援グループ相互の連携推進のため、沼田市既設の「子ども広場」の活用・運用方法に工夫を凝らしました。保健福祉センター3階にある「子ども広場」は当初は怪我防止用のマットが敷設されただけの空きスペースでした。そこに本やおもちゃを用意し、来場者の靴や手荷物を入れるための下駄箱やカラーボックスを設置しました。そして、毎週月曜日午前中の実施プログラム運用のアイデアを各子育て支援グループにお任せし、趣向を凝らしたプログラム内容で現在子育て中のお母さん同士はもとより、お子さん同士や家族の皆さんの交流の場としてご利用いただいています。並行して「沼田子育てネット」紙上での活動告知や、ホームページの開設により「子ども広場」の内容告知のみならず、地域の子育て支援に関わる多様な活動内容を随時発信しました。
成果と課題	【成果】 事業活動継続のなかで、子育て支援センターやファミリーサポートセンター等、子育てに関わる団体に新たに加わっていただき、更なるネットワーク化ができました。また、ホームページの作成やニュース紙の発行継続により、情報発信や情報共有も進みました。さまざまな活動を通して子育てしやすい環境整備を進めることができ、個々の団体活動の活性化も図ることができました。特に、毎週月曜日に開催している「子ども広場」を基点とした講習会の実施については、新たな参加者も増え「乳幼児の救急法」や「歯科検診」「親子ピクス」等、多岐にわたり活発に開催され、人材の育成も進んでいます。24年度はニュース紙内に広告コーナー(一枠1000円)を設けて、本事業の活動資金の一部として運用し、子

	<p>育てにかかわる民間団体・企業との協力もさらに進みました。</p> <p>【課題】</p> <p>利用者の増加（時期によって月間利用者数が400名を超える）により「子ども広場」のスペース（親子10組20人で満員になってしまう広さ）が手狭になってしまいます。特に混雑する夏休みや冬休みは、4階ホール（空いている時）を利用させていただいていますが、懸念されるのは、混雑時におけるお子さんの事故や怪我です。安全性の面や、利用者の皆さんに快適にお過ごしいただくためにも、沼田市子ども課に対してより広いスペース確保の検討をお願いしています。</p>
今後の展開	<p>「子ども広場」の活用は沼田市子ども課のご理解・ご協力をいただき、月曜から金曜の午前10時から午後3時まで、サポートスタッフを常駐で2名配置することが可能になりました。この運用拡大によって、より充実した子ども支援を行えるようになりました。今後の展開としては、子育て支援ネットワーク推進協議会をベースとして、多くの子育てグループや子育て支援団体の参加を促進し、子育て情報の発信とイベントの開催等、子育てのしやすい環境整備を目指します。そのために皆様の意見に耳を傾け、地域にお住まいのさまざまな人たちと子育て家庭をつなぐ架け橋としての役割を果たすため活動を続けていきます。</p>

住民ボランティアとの協働による家庭訪問型子育て支援事業

目的・事業概要	<p>ホームスタート事業は、未就学児のいる家庭をホームビジターと呼ばれる研修を受けた地域の子育て経験のあるボランティアが訪問し、主に“傾聴と協働”を行う家庭訪問型の子育て支援活動で、核家族化が進む中で、地域とのつながりが減少し、子育てに不安を抱えている</p> <p>子育て家庭に対して、親の心の安定と子育て意欲の向上を生み出し、地域の支援や人々へつなげる効果が期待されている。</p> <p>当町では、平成22年に町内で発生した児童虐待死亡事件を機に、子育てに高いストレスを感じている、いわゆる“気になる家庭”へ支援を届け、増加傾向にある児童虐待を未然に防ぐため、行政主導で人材を育成し、子育てボランティアが所属するNPOへ業務を委託して事業を実施している。</p>
効果やポイント	<p>ホームスタート事業は、行政が行う母子保健事業や子育て支援事業等の各サービスの隙間で誰かの手助けを必要としている“いわゆる気になる家庭”へ支援を届けることができ、地域の親同士としての対等な関係で、孤立感を抱いている親へフレンドリーに寄り添うことができる。</p> <p>未来を担い生きていく子どもたちを健やかに育成する責任は、大人社会すべての責任です。地域全体で子どもを育む社会づくりが求められる中で、ホームスタート事業は、人と人をつなぐ子育て支援活動で、子育て家庭が地域の人たちとつながるきっかけを作ります。</p>
今後の方向性	<p>継続した子育てボランティア等の人材育成と定期的なスキルアップ研修や会議等の開催により、質の高い訪問支援サービスを提供していく。</p>

病児・病後預かり促進事業

協働の内容	「病児・病後児預かりサポートスタッフ養成講習会」及び「事業立ち上げのためのサポート事業」を、企画・開催する
解決したい課題	・育児をしながら働き続けることを可能にするために、地域の支え合いにて病児・病後児の相互援助活動の仕組みを県内の市町村が実施できるようにする
役割分担	<p>【行政】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のサービス提供者（サポートスタッフ）養成講習会開催などに関する周知・広報 <p>【NPO】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス提供者養成講習会の実施 ・市町村の事業実施のためのサポート
協働の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・県内各市町村におけるサービス提供者の開拓、育成が促進できた ・病児・病後児預かりの実施、もしくは実施予定の市町村が増えた ・助け合いの担い手となる人材の掘り起こしと、市町村が円滑に移行できるような具体的なサポートができた

（事例ワーク3）イベントを通じて地域のつながりの再生・強化を目指す協働事例

長岡京ガラシャ祭の開催	
事業の内容	<p>各種団体で構成されるガラシャ祭実行委員会が実施する総合的な市民祭りへの補助事業</p> <p>ガラシャ祭の内容は、行列巡行、楽市楽座など。平成20年度からは、ガラシャウィークとして本祭の約一週間前からコンサートなど様々なイベントを実施している</p>
きっかけ	<p>長岡京市は、市内全域が長岡京跡に覆われ、神社仏閣や古墳などの歴史遺産が数多く存在する地域である。平成4年に、その歴史遺産の一つである、勝龍寺城跡を市民の憩いの場として整備し、勝竜寺城公園が完成した。その完成と市制施行20周年を記念して、長岡京の歴史を活かした市民祭りを、地域振興を目的に実施した。真の市民祭りとするために、将来的には民間主導への移行を目標としている。</p>
役割分担	<p>【市民・市民活動団体・事業所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行列巡行や各種イベントに参加することで、市民が主体の祭りを実施する ・各種団体や事業所、活動をする個人にとって活動の場になる。また、長岡京市の最も大きな祭りであるガラシャ祭に参加することは、自分たちの活動の宣伝・周知につながる <p>【行政】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の各種団体で構成されるガラシャ祭（市民まつり）実行委員会への補助事業 ・事務局として、会場確保や祭りの広報啓発を担当し、総合調整をする
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全市的な祭りの開催で、市民相互の連携・ふれあいの促進と地域コミュニティの活性化につながる ○市民がイベントを開催できるガラシャウィークの試みで、市民が主体的に行う催しが増えた <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○民間主導への移行の方策を検討し、事務局機能を担う団体を鋭意模索する ○活動資金の中で、市の補助金の比率が多く、まだひとり立ちが難しいのが現状である
成功のポイント	<p>ガラシャ祭は市民まつりであるので、ガラシャ祭の成功と言え、観光入り込み客数の多さなどではなくて、市民が主体的に活動できたか、ということが一つに挙げられるように思います。</p> <p>そういう点で成功するためのポイントとして考えられるのは、行政は参加団体に対し、会場提供や、全市的な広報をするにとどまり、その他の企画、段取りを信頼してまかせることだと思います。</p> <p>そうすることで、自分達の祭りを自分達の手で、という意識の元、市民まつりが一層定着するのではないのでしょうか。</p>

八千代牧場まつりの開催

事業概要	農協、帯広観光コンベンション協会、帯広物産協会、八千代牧場まつり協力会、市
------	---------------------------------------

	等で構成される実行委員会（事務局帯広市）を組織し、八千代牧場まつりの開催・計画運営を行った。また、地域農業者主催のパークゴルフ大会及び実行委員会（事務局帯広市）の家畜共進会を同時開催し、相乗効果を図っている。
きっかけ・ねらい	農業者と都市部市民とのふれあいを通じて、広く帯広の農業、畜産について理解してもらう機会とするため、地域農業者と協力し合いながら、まつりを開催する。また、農業青年や農村女性等、新しい参加者のかかわりにより、まつりの活性化を図る。
成果と課題	<p>【 成果 】</p> <p>地域農業者等がまつりの計画・実施に関わることにより、農業者は消費者と、都市部市民は生産者と接する貴重な機会となったほか、地場農畜産物や農業への理解が得られた。また、農業青年や農村女性など、まつりに新しく関わる農業者が参加したことにより、よりまつりが活発化し、地域のまつりから帯広のまつりへと発展しつつある。</p> <p>【 課題 】</p> <p>「ほかのまつりにはないまつり内容を」と「昔からの地域のまつりで」との相反する考えを尊重しながら、新たなまつり像への共通認識を持って、協力して実施する必要がある。</p>

みんなで一緒に汗を流そう！まつりが協働の出発点 ～とちぎ協働まつり～

協働のポイント ①	行政まかせでなく「自分たちのまちは自分たちでよくしよう」という志からはじまった試みを、市民・行政・企業等多くの団体が参加し、みんなの力を少しずつ出し合い、それぞれの立場を越えて協力・行動し「まつり」をつくりあげていく過程は、まさしく「協働」といえるでしょう。さらにこれまで別々に開催されていたものを協働で実施することによって、より多くの人々が参加できるようになり、その相乗効果はとて大きなものになりました。また、行政とも共に汗を流すことでお願いしたり、されたりする関係ではなく、お互いを理解し協力し合うという強いつながりができました。
協働のポイント ②	「まつり」を協働で行ってきたことで、日頃から気軽に連絡できるようになるなど、行政と市民との垣根が低くなりました。また、市内のさまざまな活動団体を知ることができました。お互いの顔が見えてくると、「まつり」のことだけでなく、日頃から協力し合えるような信頼関係も生まれました。私たちも「まつり」で実施する企画が、「協働」とどう関係があるのか考えたり、議論するようになり、改めて「協働」とは何かをみんなが考えるようになったと思います。
協働のポイント ③	「協働まつり」をみんなの手で作りに上げていくことで、市民と、企業と、行政との大きな「きずな」が生まれました。「げんき」な栃木市のために、「こころ」を一つにして、活動していることが大きな成果だと思います。（市民生活課）
協働のポイント ④	今年から『協働推進委員会』を作ったことにより「まつり」にとどまらず、様々な場面で「協働」を考えていくことができます。今後は「自分たちのまちは自分たちで」という志のもと、協働するからこそ生まれる「元気なまちづくり」を目指していこうと思います。開催当日は市民からの「協働のメッセージ」で会場いっぱいに「協働の花壇」をつくり、「協働の花（チューリップ）」の球根の配布を行います。「愛」を花言葉にもつチューリップが、家庭や地域で大切に育てられ、花を咲かせ、春により多くの方々に「協働のおすそわけ」ができるといいと思います。（協働推進委員会メンバー）

協働のポイント ⑤	「協働」という言葉は一見難しいものと考えてしまいますが、大げさに考えるのではなく「みんなで一緒に汗をかいていくことが大切だ」ということを「まつり」を重ねるごとに実行委員会メンバー・参加者は実感しています。市民・市民活動団体・行政・企業が自分の持ち味を活かしながら「協働のきっかけ」を発信し続けることで、新たな協働が生まれると思います。今年はさらに「うずま川遊会」さんも「協働まつり」に賛同されメンバー入りしてくれました。みんなで明るい豊かなまちづくりを目指したいと思います。
--------------	---

「鳴門のまつり」開催	
事業概要	地域に伝わる伝承文化を、次世代を担う子どもたちに継承していくことは、市と地域の共通課題です。獅子舞やおみこしをはじめ、阿波踊りやお練りなどが一堂に集まる「鳴門のまつり」は、自治振興連合会と市の共催により、毎年秋に盛大に開催されています。
ねらいなど	婦人連合会や伝承文化団体なども一緒になって実行委員会を結成し、役割分担のもとに、まつりの企画運営を行っています。 ふるさとの誇れる伝承文化を市民の皆さんに紹介するとともに大切に作る心を育みながら、地域の活性化もめざしています。

佐久市の各種まつりの開催	
佐久市民祭「榊祭り」	望月宿周辺にて鹿曲川への松明の投げ込み、榊神輿のほか様々なイベントを実施する。 【協働のパートナー】 佐久市民祭「榊祭り」実行委員会
まちじゅう音楽祭	会場に集まった市民が、コーラスグループのリードにより、懐かしい童謡や唱歌を歌い、親しむイベントを実施する。 【協働のパートナー】 まちじゅう音楽祭実行委員会（趣旨に賛同するコーラスグループの代表、指揮者、伴奏者ほか）
浅科どんどん祭り	千曲川浅科グラウンド周辺にて、魚つかみどり大会や花火大会のほか様々なイベントを実施する。 【協働のパートナー】 浅科どんどん祭り実行委員会